

**『地域から世の中を探究する』ための教育実践**  
**～地域と大学と高校の連携を通じた取組～**  
北海道津別高等学校 学級数3 (校長 南 俊明)

## I 実践テーマの趣旨

津別町は林業と農業によって発展してきた町であるが、近年は人口減少と高齢化が避けられず、商店街や住宅街には空き家が見られる。将来的にも人口減がさらに加速することが予想される中で、津別町の今後を担う人材の育成が求められている。よって、地域の将来について深く考え、高校生をはじめとする若者に対して、町と関わる機会を増やすことにより、地域社会の一員としての意識が高まり、町の活性化につながるという考えのもと、津別町を学びの場とした「つべつ学」を実施することとした。その学びにより、生徒自らが津別町の抱える課題を認識し、その解決策を模索していく中で、主体性や学びに向かう力、社会性、コミュニケーション能力、社会的自立心、職業的自立心などを育むことを目的とした。

平成30年度から北海道ふるさと・みらい創生推進事業「高等学校OPENプロジェクト」の研究指定校となり、校内に「未来プロジェクト委員会」を発足させ、本プロジェクトの研究テーマを実践していくとともに、今後の社会の変化や地域社会で求められる人物像を見通した上で、これまでの本校の教育実践の成果等を踏まえ、次の段階の津別高校を創造するための調査研究及び検討を行うこととした。学校教育目標を踏まえ、以下に記載した具体的活動内容を推進してきた。

### 【学校教育目標】

- 1 ひたむきさ 目標を持ち、根気強く努力し、自己実現を図る力を育てる
- 2 優しさ 他を思いやる優しさと喜びを分かち合える心を育てる
- 3 しなやかさ 豊かな人間性を持ち、社会の変化に対応できる人間を育てる
- 4 自分らしさ 社会の一員として、個々の持つ良さを最大限に発揮できる意欲を育てる

### 【未来プロジェクトの具体的活動内容】

- 1 新学習指導要領の研究（令和4年度新教育課程実施に向けて、教育課程委員会への提言）
- 2 津別高校を取り巻く状況の調査研究（校内・学校関係者および町民に対するアンケート）
- 3 他校の事例研究（学校視察等）
- 4 津別高校生への育成すべき将来像の検討
- 5 研修会（報告会）の実施（研究成果報告会、全道フォーラム等）

## II 実践内容

- 1 『つべつ学Ⅰ』における地域産業の理解への取組
- 2 『つべつ学Ⅱ』における地方自治の理解への取組
- 3 『北海道大学との高大連携事業』における地方創生に向けての提言への取組

### Ⅲ 実践概要

#### 1 『つべつ学Ⅰ』における地域産業の理解への取組

##### (1) 農業について

###### ○農業実習（体験学習）

町内農場において、この地域の特徴について説明があり津別町と農業との関わりや歴史、栽培される作物の推移から現在抱えている課題についての提示があり、それを基に、この地域におけるこれからの農業が、第6次産業を含めどのようにあるべきかについて考察する契機とした。



また、就農の動機や農業の魅力、農業のブランド化に係る取組等についての講話もあり、その内容から、進路に関わる職業講話としても位置付けた。“農業”においても人



とのコミュニケーションが必要であること、グローバルな視点で物事を捉えることのできる能力が必要であることなど幅広い講話であった。

さらに、農場全体を見学し、作物栽培の過程についての説明を受け、実際に唐辛子の植え付けを体験することにより“農業”への理解を深めた。

###### ○外部講師による講義

J A つべつ職員の方を講師に迎え、J A 概論として、組織の仕組みと社会的役割や使命、農業協同組合法に基づくJ A の事業目的から「営農と生活に密着した総合事業」を行っていることや組織の存在意義等についての説明を受けた。最後に、津別町農業の課題として



- ①食料自給率を向上させるためには何が必要か。
- ②農業従事者が減少する中、どのように農地面積を維持するのか。
- ③観光・教育・福祉と連携した取組を行うためにはどうするか。

などの提示を受け、それに基づきグループで“農業の課題”の設定とその解決策についてディスカッションを行うための準備とした。

###### ○グループ討議と発表

講義と体験学習から学んだ農業についての情報を整理し、グループワークで課題の設定とその課題の解決策に向けた実践研究を行うとともに、これまでの外部講師を招いて、クラス内での発表会を実施した。この一連の活動では、次の能力について身に付けさせることを目的とした。

- ①地域の方々との交流から生じるコミュニケーション能力
- ②必要な情報を様々な媒体を通して自ら見つける情報収集及び活用能力
- ③地域の方々のお話を傾聴し、知り得た情報や学んだ知識をまとめ、考えを整理する能力
- ④グループワークにおいて、他者の意見を尊重し、自分の考えや意見を述べることのできるコミュニケーション能力
- ⑤調べた事柄から課題を見つけ出す課題発見能力
- ⑥グループ内の生徒やクラスの生徒、全校生徒や地域住民に自らの考えを発表するプレゼンテーション能力



また、これらの資質・能力を身に付けることは、社会的・職業的自立心を育むことを大きな目標としているこの科目のねらいとも関連している。

## (2) 畜産・酪農について

### ○巡検とグループワーク

町内酪農ファームで、肉牛・乳牛飼育に関わる説明を受けながらその実際について体験した。津別町は和牛及びオーガニック牛乳がブランド化されており、ブランド化までの経緯や事業を展開する際に必要な人とのつながり、プレゼンテーションの重要性について学んだ。テーマ“農業”で身に付けた情報収集能力、情報処理能力を活用するとともに、グループワークを通して、課題の設定からグループ発表までを実践した。



## (3) その他

### ○自然を学ぶ

NPO法人「森のこだま」代表を講師として、津別町の自然について講演会を実施した。具体的には、雲海発生メカニズム、森林と草花、生息する動物などについて解説をいただいた。課題として農業や酪農などの産業が自然に影響を及ぼし環境問題を引き起こしているとの課題が提示され、自然と人間が共生するための方策について考えることを題材として、問題解決能力の向上を図るとともにどのように「つべつ学」を学ぶべきなのかについての道標とした。

### ○ポスターセッション

学校説明会では、中学生とその保護者、中学校関係者に対して、これまでの「つべつ学Ⅰ」で制作したポスターを活用し、ポスターセッションを実施した。学習成果の発表の場であるとともに、地域の方々への情報発信スキルとコミュニケーション力の向上を意図した。その対象を多岐に渡らせることによる効果は絶大であると感じている。



## 2 『つべつ学Ⅱ』における地方自治の理解への取組

### (1) 地方自治について

#### ○役場訪問と議会見学

津別町の行政に関わる知識を深めることを目的に、役場訪問を実施した。町総合計画や行政課題、行政の仕組み等についての全体説明を受けた後、2人1組で分担し、役場内の各部署の業務内容と町民に対する役割等についてインタビュー形式により調査した。さらに、傍聴者として議会に参加することにより知識を深めた。

個々に知識を蓄え、グループ内交流を通して、情報収集能力、情報処理能力を向上させることができた。



### (2) 地域創生に向けて

#### ○津別町への提言

1年次『つべつ学Ⅰ』において得た津別町に関わる知識と、『つべつ学Ⅱ』で学んだ町総合計画と行政課題から、地域創生に関わる提言を町に行うため、高大連携事業により学習を進めた。

## 3 『北海道大学との高大連携事業』における地方創生に向けての提言への取組

津別町役場住民企画課の協力を得て、北海道大学公共政策大学院（HALCC）との連携事業において、自分の将来像について考える探究活動を通して、津別町の課題解決に向けた提言を、町議会に提示することを目標に実施した。

## (1) 津別町と自分の未来を創造する高校生フォーラム

### ○みらいワーク

高校生活を過ごす場である津別町の未来を“自分のこと”として捉え、津別町の将来を想像することを通して「調べる力」「考える力」「伝える力」を身に付けることを目的として、大学院生がファシリテーションを行い、個人ワーク・個人面談等を実施した。



個人ワークにおいては、理想の未来の姿からバックキャストイング手法を用いて現在の自分を考え、SWOT分析により自分自身の現状を認識した上で、現在からの延長線上にある未来の自分の姿を導き出す作業を行った。生徒はグループに分かれ、各テーブルに配置されたタブレットを活用し、大学院生とオンラインでワークショップを実施した。

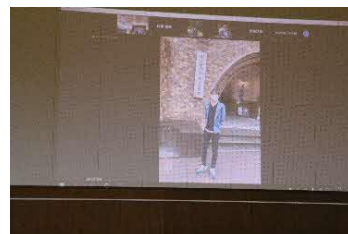
### ○高校生フォーラム

みらいワークで考察した「津別町の理想の未来」に基づいて、高校生フォーラムを実施した。大学院生（オンラインによる参加）、役場職員、本校担当教員が立ち会い、大学院生のアドバイスを受けながら各班が発表を行った。

## (2) 北海道大学オープンキャンパス

### ○北大オンラインツアー

高校生が北大の学習・生活環境等に触れることで生涯学習の大切さを知ることを目的に、1・2年生を対象として、北大とのLIVE配信によるオンラインツアーを実施した。大学院生が北大の敷地内にある施設の紹介をするとともに、学部の説明や進路に対する考え方などを語った。また、「地域創生の時代を超えて」をテーマにした大学院講師の模擬講義を受講した。



## (3) 津別町への提言

### ○成果報告会

これまで収集した情報を基に、津別町に対し、地域創生に向けた提言をする「成果報告会」を、町役場を会場に実施した。また、北大と本校をオンラインで結び、提言の様子をLIVE配信した。さらに、町民に対して広く視聴を求めするため、広報紙を利用してLIVE配信のURLを公開した。LIVE配信は町内の映像メディアサービス会社との連携により実現した。

## IV 活動の成果と今後の課題

### 1 活動の成果

- (1) 巡検や講演、高大連携事業を通して、多種多様な人々と関わりを持つことにより、コミュニケーションスキルを身に付けることができた。
- (2) 学習活動を通して、将来の自分と地域の関わりについて考えることができるようになった。また、課題の設定や、解決策について考える手法も身に付けることができた。
- (3) 各種発表等により、情報収集能力と処理活用能力を身に付けるとともに、表現力を向上させることができた。

### 2 今後の課題

- (1) これまで培ってきた地域人材の活用について、「つべつ学」のみならず、他教科の学習活動においても継続的に充実させていく必要がある。
- (2) 高校と地域が連携し、「まちづくり」とおとした“魅力ある高校づくり”に向けた学校活動の在り方について検討する必要がある。